

第 11 回 定時総会 会長挨拶

一般社団法人 日本陸用内燃機関協会
会 長 笠井 雅博

本日はご多用中にも関わらず、多数ご出席頂き誠にありがとうございます。
また平素より、当協会の運営につきまして、格別のご支援・ご協力を賜り、改めて御礼申し上げます。第 11 回定時総会開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

最初に、私どもを取り巻く日本の情勢ですが、先月 4 月 3 日に発表された日銀短観によると、景気は緩やかに回復していると思われま。総じて、円安基調による輸出と鋳工業生産が回復し、堅調な雇用・所得情勢を受けて個人消費が持ち直しています。

その先行きについては少し慎重な見方もあるようですが、輸出の回復と公共投資の増加、個人消費の底堅さ、インバウンド効果などにより、引き続き回復傾向が続くものと期待しています。

次に、海外の情勢です。

まず、陸用エンジンの最大マーケットである米国では、新政権発足から 4 ヶ月が経過しております。政権そのものに対する支持率は、未だ低い状況であります。大型の財政政策や実質 GDP 成長率の伸びを背景に、引き続き米国の景気は拡大傾向にあると思われま。

続いて、欧州とアジアの市場についてです。欧州については、主要国の政治的な不確実性を背景に、次第に減速する可能性も出始めております。アジアについては、中のインフラ投資など財政による下支えや生産在庫の改善などが進み、景気の回復が加速するものと思われま。

以上をまとめますと、私共を取り巻く事業環境は、当面改善が進む方向であると認識致しますが、今後の米国新政権の行方や、欧州の政治情勢次第では、まだまだ下振れのリスクも含まれており、今後とも注意が必要であると考えま。

それでは、マーケット情勢や事業環境の見通しに対して、業界として今年度の事業そのものを、どう捉えているのでしょうか？ご紹介するデータは、先月にまとめたものですが、当協会の会員エンジンメーカー 20 社さまからご報告頂いた調査結果を基に、平成 29 年度のガソリン、ディーゼル、ガスエンジンを足した、この 1 年間に国内海外で生産を計画している総台数の合計値となります。今年度すなわち平成 29 年度の見通しは、ズバリ総台数で 1,401 万台となっております。前年に対しては、7 万台(▲0.5%)減となっており、大方の経済情勢の見方と同様に、業界全体としては、少し慎重な見方をしているようです。

続きまして、詳細は後程ご紹介することになりますが、昨年度の当協会の活動成果の中で、特に協会の一歩の取組み課題である排出ガス規制に関する対応状況について、少しご紹介致します。

まず、国内及び北米の法規制については、今大きな動きはまだありませんが、欧州では大きな動きがありました。2019 年からスタートする欧州のノンロードエンジンに対す

る排出ガス規制、Stage Vが昨年9月14日について公布され、関連法規も先月4月13日に出されております。協会では公布前から事前の情報入手に努め、各委員会を中心に対応を協議してきており、規制条文の詳細については、和訳を含めて、逐次ホームページに公開しておりますので、是非お目通しください。

また、対応が難しい中国の排ガス規制については、協会としても一層の情報入手活動に努め、関連トラブルへの対応等、より踏み込んだ対応を進めており、新しい情報を入手次第、展開申し上げます。

また、排出ガス関連の情報入手の動きとして、忘れてはならない内容として、今年の2月にIICEMA(アイアイセマ)国際内燃機関工業会の第5回年次大会がインドで開催され、今回で設立5年目を迎えております。協会としても最重要会議として位置づけ、会員代表と事務局の構成メンバー6名にて出席しました。内容につきましては、後ほどの議題の中で、ご案内致します。

さて、最後になりますが、今後も我々陸用エンジン業界が世界市場の有力なプレイヤーとしてあり続けるためには、さらなる努力と挑戦を続けてゆくことが重要です。

会員各社におかれましては、その高い技術とたゆまぬ研究により、これまで以上に存在感を高められていくと確信しております。陸内協といたしましても、皆様と手を携えて、その責務をしっかりと果たしていく所存でございます。

皆様方の益々のご活躍、ご発展とご健勝を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

以上